

## 在職当時を思い起こして

著者	井上 勝一郎
雑誌名	鹿児島大学歯学部紀要
巻	38
ページ	6-6
発行年	2018-03-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/00030230">http://hdl.handle.net/10232/00030230</a>

## 在職当時を思い起こして

鹿児島大学名誉教授 井上 勝一郎

鹿児島大学歯学部創立40周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私は、1981年9月から2000年3月までの18年6ヶ月間、鹿児島大学歯学部歯科理工学講座でお世話になりました。当時を振り返ると学部としての歴史もまだ浅く、教室作りで忙しいながらも充実した毎日でした。赴任して数年経った頃です。10名ばかりのゼミ生が集まり、私のいる宿舎で食事会を開いたことがありました。夜遅くまで大変盛り上がり、お互いの将来について熱く語り合ったこと、今となってはとても良い思い出の一つです。

歯科理工学講座の特徴は、歯科材料の物性、開発に関心のある人達は自由に出入りし、それぞれ仕事ができるような雰囲気作りに努めていたことです。歯科理工学在籍の大学院生をはじめ、臨床関係の若い先生方、誰かが毎夜遅くまで仕事をし、守衛さんに「今夜も遅いのですか」と声を掛けられることもしばしばで、よく挨拶をかわしたことを思い出します。複数の測定器が常に稼働し、実験室は活気に溢れていました。

1998年、鹿児島大学国際交流委員長として、当時学長であった田中弘允先生のお伴で、4月26日から5月2日にかけて中国各地の大学を訪問したことがありました。その中で特に印象に残ったことは、いずれの地においても、現地の大学スタッフの皆さんが、鹿児島大学に対して深く関心を寄せ、熱心に情報収集にあたる姿です。その情熱、意気込みは、今日の中国の発展を予感させる光景として鮮明に印象に残っております。

退官後は地元に戻って、生体材料に関する小さな研究所を設け、旧歯科理工学の仲間や業者の方々にも加わって頂き研究活動を続けています。学会等に出席した折、かつて研究活動を通して繋がりのあった若い先生方の歯科界におけるご活躍を耳にするたびに誇らしくもあり、嬉しい気持ちでいっぱいになります。

終わりに、鹿児島大学歯学部の今後ますますのご発展を心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。